

令和 6 年 5 月 21 日 小方まちづくり特別委員会 議事録
10時00分 開会

○出席委員 (8 人)

委員長 小田上 尚典

副委員長 細川 雅子

委員 中野 友博、豊川 和也、小出 哲義、末広 天佑、藤川 和弘、
中川 智之

副議長 寺岡 公章

○欠席委員 なし

○小田上委員長 皆さん、おはようございます。定足数に達しておりますので、ただいまから小方まちづくり特別委員会を開会します。

今日は執行部の方が同席されて、いろいろ事前に出した質問等の答えをいただいて、質問をさらにあればというところで、説明たくさんしていただこうと思います。ですので、職名等名乗っていただいて、マイクに近づいて発言をお願いします。

それでは、議事日程に従って進めさせていただきます。

日程 1、小方地区のまちづくり事業における疑問点等についてということです。

事前に委員の皆さんと協議をしながら、質問の整理をしまいいりました。大きく分けて 3 つ、小方地区のまちづくり基本構想について、そして、以前行われた議員全員協議会の資料について、そして、前身と言えるかですけど、以前ありました小方地域まちづくり対策特別委員会についての質問というもの、これらを 3 つ上げております。それぞれ説明をいただいて、この 3 つ、1 個ずつ終わるごとに質問をしていこうというふうに考えておりますので、執行部の皆様も御協力よろしく願いいたします。

それでは、早速提出しました質問に関して回答いただきたいと思います。

長くなろうと思いますので、着座のままで結構です。回答は文書での配付が時間的な都合上難しかったというところで、皆様メモを取っていただくなり、今日のユーチューブにアーカイブが残りますので、また聞いていただければと思います。

それでは、質問の回答よろしく願いいたします。

企画財政課長。

○三井企画財政課長 おはようございます。企画財政課長の三井です。

まず、初めに小方地区のまちづくり基本構想について、1 番から 6 番を順に説明をさせていただければというふうに思います。

まず、質問 1 でございます。基本構想内のスケジュールや現在の計画内での立ち位置、大竹駅等他の事業との時系列の解説をお願いしますというところでございます。

質問 1 に関しましては、資料 1 から 5 を事前にデータを貼り付けさせていただいておりますので、こちらで説明をさせていただければと思います。

御質問については、大きくは 2 点あるかと思います。1 点目がこれまでの取組を時系列

で整理して説明してもらいたいということ。そして、2 点目が道の駅や小方新駅の現在地、今後のスケジュールを見据えて今どこの部分に取り組んでいるのかの説明をしてほしいということだろうというふうに思います。

それでは、1 点目でございます。資料 1 を御覧いただいたらと思います。

資料 1 は、小方地区のまちづくり事業の取組の経緯等をまとめたものでございます。この資料 1 には、左側に上から平成28年度、平成29年度、そして令和 6 年度までの年度を記載しております。

そして、その年度ごとに、一番上の黄色い箇所でございますが、小方地区のまちづくり、そして大竹駅周辺整備事業、主な公共施設等の整備状況等、最後に、庁内組織体制の項目別で取り組んできた内容を時系列で記載している表となっております。

小方地区のまちづくりの箇所を見ていただきたいのですが、平成28年度は、御承知のように小方地区のまちづくり基本構想策定業務、小方地区道路概略検討業務、小方地区駅立地検討業務の 3 つの業務を行っております。

このときに作成いたしました小方地区のまちづくり基本構想を基にですね、現在も小方のまちづくりを進めているところでございます。なお、道路概略検討業務及び駅立地検討業務での報告書につきましては、非公表とさせていただいているところでございます。

次に、平成29年度に移りまして、小方中学校跡地について、小方まちづくりにぎわい交流ゾーン立地検討業務を行っております。

平成30年度から空欄になっておりますが、右側の大竹駅周辺整備事業、こちらは J R 西日本等と駅の橋上化工事及び自由通路等の話し合いを進めておりまして、平成30年度には双方の合意が得られ、工事に関する協定書を J R 西日本及び J R 貨物と提携となりましたので、大竹駅周辺整備事業が本格的に進むことになりました。

したがって、小方新駅と大竹駅を両方同時に進めることは非常に困難でございましたので、平成30年度からは大竹駅の整備に注力することとなりました。

この大竹駅周辺整備事業も令和 3 年度ぐらいになりますと、おおむね工事完了までの見込みは出てまいりましたので、一番右側になりますが、小方地区のまちづくりを進めるための庁内組織体制について事務改善委員会で推進体制の検討を行ってまいりました。

組織体制としましては、令和 4 年度に小方まちづくりの統括部署である企画財政課の企画係につきまして、小方まちづくりの業務を担う時間を確保するために課内に新たに 1 係を新設し、それまで企画係で行っていた広報や統計などの業務を専任化させることで、小方まちづくりの業務を担える体制にいたしました。

企画財政課としましては、令和 4 年度に 3 係から 4 係体制になりました。また、小方まちづくりの推進体制には複数の課の連携が不可欠でしたので、令和 5 年度からプロジェクト的に小方地区のまちづくり事業推進会議を設置し、4 つの部会で論議をしてまいりました。

この推進会議の体制につきましては、資料 2 を御覧いただければというふうに思います。右側が令和 5 年度、左側が令和 6 年度でございます。

令和 5 年度は 4 つの検討部会として、J R 小方新駅検討部会、周辺道路検討部会、事業

用地処分検討部会、そして小方小・中学校跡地検討部会を設置いたしました。令和6年度に入りまして、J R小方新駅検討部会と周辺道路検討部会につきましては引き続き設置をいたしました。事業用地処分検討部会と小方小・中学校跡地検討部会は廃止し、新たに道の駅検討部会を設置させていただき、3部会で検討を進めているところでございます。

組織体制は以上ですが、資料1にちょっと戻っていただきまして、小方地区のまちづくりの欄でございますが、このように組織体制を整備したことで、令和6年度から小方新駅の需要予測等検討業務、小方地区のまちづくり基本構想の一部改訂、令和5年度には小方小中学校跡地の周辺測量等業務、小方地区のまちづくり道路設計等業務、そして今年度に入りまして、令和6年度の駅基本構想・基本計画等の策定業務、小方地区のまちづくり道路設計等業務を進めているところでございます。

なお、平成30年度から令和3年度まで、小方地区のまちづくりの部分が空欄でございますが、何も取り組んでいなかったということではなくて、主な公共施設等の整備状況等の欄を見ていただければというふうに思いますが、小方小・中学校跡地に関しましては、跡地の整備を令和4年度まで行っておりまして、また、アンダーラインを引いた業務は小方地区関連でございますが、市道小方4号線の道路改良や、小方認定こども園、子育て支援センター施設の整備、下瀬美術館の誘致など小方地区に関する事業は進んでおりました。

また、そのほかこの間アゼリアおたけの改築、市役所本庁舎耐震改修事業、先ほども申しましたが大竹駅周辺整備事業、小方認定こども園や子育て支援センターの新築など、どれも億単位での大型事業を進めておりましたので、財政面でも、また職員の業務量を考えても、さらにコロナ禍であったということも含めまして、これらと小方新駅や小方小・中学校跡地の開発を同時に進めることは非常に厳しかった状況であると思っております。

以上が、時系列でのこれまでの取組を整理したものでございます。

次に、2点目の道の駅や小方新駅の取組の現在地でございます。資料3を御覧いただければと思います。

これは国土交通省のホームページの内容でございます。その中で中段部分に施設の配置・整備フローという欄がございます。その右側に道の駅オープンまでの手順フロー図が示されております。そのフロー図の一番上に、市町村等道の駅全体構想計画という部分がございます。まさに今私たちが今年度と来年度の2か年で行おうとしているのがこの全体構想計画入口の部分でございます。

資料4にもう少し詳しく整理いたしましたので御覧いただければというふうに思います。道の駅の登録までの主な流れの一例でございます。

先ほども申しましたが、今の現在地はスタート地点でございますので、市の整備の思いをですね、取りまとめた道の駅基本構想・基本計画を策定しているところでございます。

その整備ができましたら、国をはじめとした関係機関との整備手法等の調整に進み、その後、①基本設計段階に移りますが、県が事務局をされている広島県幹線道路協議会道の駅推進部会に計画の審議を図ることとなります。そして、②に進みまして、実施設計段階には規模と接続道路への影響審議を道の駅推進部会に諮り、最後に③として、登録段階として登録内容の審査として推薦の是非を決定してもらうこととなります。

このような過程を踏んでようやく④工事・登録申請・交付の段階を経て、⑤供用開始、オープンに至るということとなります。

次に、新駅設置までの主な流れの一例を資料の 5 に整理しておりますので、資料 5 を御覧いただけたらと思います。

これもあくまで一例でございます。現在地ですが、現在は検討を開始し、左側の括弧内、＜市＞としておりますが、ＪＲ西日本への相談資料の作成を行っている段階でございます。まさにこれも入口の段階です。現在、利用者の需要予測としまして、①居住人口・従業員人口等における需要（駅勢圏法）アンケートを実施、②将来的な周辺地区の開発による増加人口等を推計し、ＪＲ利用者の需要予測を行っているところでございます。

また、これらに加えて、駅整備計画、駅周辺施設計画、概算事業費等も作業を進めている段階です。したがって、これらのＪＲ西日本に相談するための資料をそろえている段階となります。

この後、相談から協議に移行し、あらかじめ双方で協議が整えば、基本的推進合意となります。そして事業化合意、次に詳細協議合意、ようやく基本協定締結となり、駅の整備工事などの事業実施に着手でき、新規開業となるというのが一般的な開業までの流れでございます。

したがって、道の駅同様に小方新駅の取組につきましても、まだまだスタート地点であるというのが現在地でございます。

以上が、質問 1 の回答となります。

引き続き、質問 2 に移らせていただきます。

質問 2、基本構想の基本データが古いので、修正や更新したものを作成できますか。困難な場合、執行部の所有する根拠資料や最新データの提供を要望しますという御質問でございます。

回答としましては、現時点で修正、更新は考えていないところでございます。

令和 6 年度、今年度に人口ビジョン及びまちづくり基本計画等の改定を行いますので、人口推計等の公表できる最新データが必要な場合には、情報提供をさせていただければと思っております。

次に、3 番です。基本構想の 5 項目についてクリアしていること等現状の整理をしたものを伺います。これは概要版 3 ページの 5 項目のことかなというふうに解釈をいたしました。

こちらの 5 項目がまちづくりのコンセプトや基本方針等を導くための前段の整理事項を概念的にまとめたものでございまして、この 5 項目を現時点でどこまで達成したかを定量的に示すことはちょっと難しいかなと思っております。この 5 項目を基に、市等が今後行っていくことを整理したのが概要版の 8 ページの、7. 年次別実現プログラムとして整理しているところでございます。

実施主体（市）の中で、例えば 2 の 1 の①子育て支援施設・保育所などの導入。これは隣に小方認定こども園、子育て支援センターが設置されましたというところでございます。完了しているというところですね。4 の 3 の⑩県有地への晴海臨海公園や既存施設と一体

的にぎわいを目指す企業誘致の促進。これは下瀬美術館を誘致いたしましたので、こういった項目は完了していると言えると思います。

また、1の3の⑤新駅設置の早期実現や、4の1の③晴海臨海公園を活用したスポーツ・レクリエーションの推進、そのほか、後ろ側に【跡地活用】がかなり出てくるんですが、中の項目につきましては、現在取組中の項目なんだろうというふうに思います。

また、その他、まだまだ検討に至っていない項目もありますが、取組順位の優先順位というのは特に定めていないところがございます。現状でまちづくりの核となる新駅設置及び跡地活用の項目を前に進めるために全力を挙げて取り組んでいるというところがございます。

次に、4番目。基本構想策定の際に行った議員ワークショップで2号線の過疎化という意見があるが、岩国大竹道路の完成により求心力が弱まる点が基本構想で触れている。この点について市はどのような対応をしていくのか。

岩国大竹道路が開通すると国道2号線の交通量が少なくなるよというその対応はどうかということかなというふうに読み取りました。回答といたしまして、道の駅は目的地となるよう魅力的な道の駅の整備を目指す必要があると執行部のほうも考えております。なお、執行部が参考にした「教科書道の駅」っていうのがあるんですね。これを教本にですね、道の駅の整備を進めているんですが、こちらの「教科書道の駅」でもたまたま立ち寄る道の駅というのではなくて、わざわざ来てもらえる道の駅にすることが求められておりますので、そういった魅力的な道の駅を今後目指していきたいと思っております。

次に5番、6番、ちょっとこちら両方同時にお答えをさせていただきたいと思います。

5番は、まちづくり基本構想策定時にオープンハウスを行ったが、道の駅の基本構想策定の際に行いますか。市民の意見を聞く機会を設けることは現時点でどのように考えていますか。また6番、担当課、外部コンサルティング業者以外の人で、計画を策定するに当たって参考とする意見を求める人がどのような人になるのか、具体的な団体名はなくて構いません。計画策定に係る審議会や部会について構成を教えてください。こちらがはっきりと道の駅の基本構想計画のこととは書いてなかったんです。読み取るのにそういうことかなと思ひまして、同時に説明をさせていただこうと思います。

資料6を御覧いただいたらと思います。

こちらの資料6は、もうホームページにも公開してるんですが、道の駅基本構想・基本計画策定等業務公募型プロポーザルの抜粋、公表してることを抜粋したものでございます。

現状、今日が5月21日でございますので中段ですか、契約までの流れの中段に提案書の受付期間というのがあると思いますが、この段階でございます。

したがって、今、事業者から提案を求めているところでございます。事業者から市民の意見を聞く機会としてどのような提案があるかですね、現時点ではちょっと分からない状況でございます。

以上が、質問1から6の回答となります。よろしく申し上げます。

○小田上委員長 ありがとうございます。

小方地区のまちづくり基本構想についてというところでのまとめた質問に回答いただき

ました。この回答についての質問、追加でありましたら受け付けようと思います。質問ございますか。

中川委員。

○中川委員 丁寧な説明ありがとうございます。大変苦勞されてるのがよく分かります。

その中でこの資料の5ですけど、新駅設置までの主な流れということで説明いただいたんですけれども、設置までの期間ってどれぐらいか、ちょっとお願いします。

○小田上委員長 建設管理監。

○見当建設管理監 建設管理監の見当です。よろしくお願いいたします。

中川議員の御質問については、私から回答させていただきます。

このフロー図につきましては、一般的な請願駅のフロー図ということで、需要予測等検討業務を行ったJ Rコンサルタントに全国的な一般事例としてお示しいただいたものを今回説明させていただいたところでございます。やはりその時限的なものというのが、市議会議員の皆様だけでなく、市民の方々、私ども大竹市も気になるところではございますが、なかなかこの請願駅について標準的に時限的なものを示すのが難しいと聞いております。

ただ、この基本的推進合意までに相当な期間を要しており、それ以降については比較的短時間で実施できているというふうには聞いておりますが、何分ここに時限を示すことが難しいということを御理解いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○小田上委員長 中川委員。

○中川委員 はい。分かりました。一番やっぱり小方まちづくりでよく聞かれるのが新駅がどうなるのか、どうなのか、そういったことをよく聞かれるので、できるだけ早く、お願いしたいと思います。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。他にございますか。

中野委員。

○中野委員 よろしく願いいたします。

今のに付随して、まず、2点ほど質問させてください。

資料5、基本的推進合意に至るまで、まず、今、市としては相談資料の作成というところを行っているということでした。この相談資料の作成のめどというのがどれぐらいのものなのか、おおよそでいいんですが、分かれば教えてください。

2点目、資料4の道の駅の登録までの流れなんですけど、四角い囲みの3つ目、基本設計段階から計画の審議であつたり、接続道路への影響審議というところがあると思うんですが、この審議段階で難しい、落ちるというかそういう可能性っていうのが、ほかの自治体とかであるものなのかどうか、この審議っていうのが、どういう位置づけなのかというところがもし分かれば、知りたいなと思います。お願いします。

○小田上委員長 建設管理監。

○見当建設管理監 建設管理監の見当です。中野委員の1点目の御質問にお答えいたします。

資料5の左のほうにあります市の相談資料の作成状況でございます。

令和4年度に補正予算をいただきまして、需要予測検討業務を行い、昨年度末に完了し

ているところでございます。ただ、この需要予測結果につきましては、まだ道の駅や小方小学校跡地で予定しております事業用地のA地区、また、さらに広い範囲でいきますと晴海臨海公園等の需要予測が積み切れていないところがございます。また、その需要予測結果につきましても、J Rの中で、検討結果が妥当であるか、またその内容につきまして、この収支計算を行うというふうに聞いておりますので、なかなかこの検討、相談資料の作成につきましては、現時点で100%完成しているとは言い難い状況でございます。

この内容につきましても、J Rのほうに相談していきながら、その資料での補足部分を追加していき、できるだけ早くJ Rの判断をいただけるよう努力してまいりたいと考えております。

以上です。

○小田上委員長 企画係長。

○本山企画財政課課長補佐兼企画係長 企画財政課企画係長の本山です。道の駅のフロー図にあります広島県幹線道路協議会道の駅推進部会に審議をかけたときに落ちる可能性があるのかということでございますが、今時点、問合せを聞いてる限りでは、審議会にかけて修正すべきところの指摘があるとか、そういったことは伺ってるんですが、落とされるかどうかというところはちょっと不明な点でございます。

以上です。

○小田上委員長 中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。すみません。

まず、2点目の審議の件分かりました。大丈夫です。ありがとうございます。すみません。1点目の資料作成のめどのところ、もう1つお聞かせください。今のお話を聞く限りでは、完成した資料を提出するというよりかは、継続して進捗、進んでいくごとにその資料を提出して、最終的に基本的推進合意に向けて進むというようなイメージでよろしいですかね。A地区とかそういうものがどんどん決まって行って、分かったごとに提出してってところで継続して行ってるっていう状況でよろしいですか。確認でした。

○小田上委員長 建設管理監。

○見当建設管理監 現在、中野委員がおっしゃったとおりJ Rに対しては、相談というのは始めておりますが、なかなかその1回切りというのではなく、いろいろと議論を交わしながら相談を続けていく必要があると聞いております。

先日もJ Rに相談に行きましたが、なかなか現時点でどういった判断ができるのかとすぐには分からないこともあると思いますので、今後もできるだけ早く必要な資料というのを準備して、再度相談に伺いたいというふうに考えています。

○小田上委員長 他にございますか。

ないようであれば、次の項目に行きますがよろしいですか。

では、議員全員協議会の資料についての質問に移りたいと思います。よろしく願いいたします。

企画財政課長。

○三井企画財政課長 企画財政課長の三井です。

それでは、質問の 7 番からの項目について回答をしたいと思います。

7 番目、道の駅の要件について、説明では道の駅について①休憩機能、②情報発信機能、③地域の連携機能の機能が必要とのことだった。①、②、③について必須となるものを具体的に教えていただきたい。また、市が自由に展開できる内容はどの程度あるのか。一体型の道の駅として設置した場合の市の自由度を確認したいという御質問でございます。

資料 3 のほうを御覧いただいたらと思います。

こちらが一番下に、登録要件というのが書かれております。

読まさせていただきますと、休憩機能、利用者が無料で 24 時間利用でき、十分な容量を持った駐車場がある。また、清潔なトイレ（原則、洋式）や子育て応援施設（ベビーコーナー等）があるということが登録要件となりますので、こういったことを満たさないといけないという形になります。

2 番目の情報発信機能でございます。道路及び地域に関する情報提供（道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等）

そして、3 番目として、地域連携機能として、文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興を、こちらなどがついているので、これに限定されてるわけではない。

その他としまして、施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化というのが登録要件となっておりますので、基本的には、こちらの要件を満たすという形になってます。

また、道の駅のコンセプトとしましては、地域とともにつくる個性豊かなにぎわいの場でございまして、市の思いを基本構想や基本計画に今後反映していくことになってこようかと思えます。

御質問の自由度でございます。市が整備をする 3 番目の地域連携機能につきましては、ある程度自由度はあるんじゃないかと思われそうですが、今後国に相談していくことになりますので、具体的にどの程度自由度があるかについては、現時点では分からないというのが現状でございます。

続きまして、質問の 8 番ですね。道の駅基本構想について、プロポーザル方式で基本構想を作る業者の選定を行う段階なので、市としてどのようなイメージをしているかについて説明を求めたい。（ターゲット層等）ということでございます。

こちら、先ほど申しました資料 6 を御覧いただいたらと思います。

現時点で道の駅基本構想・基本計画策定等業務公募型プロポーザルを行っておるところでございます。仕様書では小方地区のまちづくり基本構想の 4 つの柱、住まい、子育て、にぎわい、地域の魅力を踏まえた、スポーツ・体験型道の駅の整備コンセプトや目標を設定することとしておりまして、現時点ではイメージは分からないというのが現状でございます。

○小田上委員長 建設管理監。

○見当建設管理監 建設管理監の見当です。私からは質問の 9 番について対応させていただきます。

御質問ですが、市民説明会での質疑では、小方新駅の費用負担は、小方が望む請願駅になるので、自治体の見込みとはなっているものの、小方地区など地域に強制的な負担があ

るのか。手法としてどのようなものが考えられるか。和木町の駅設置における状況等といった御質問でございます。

回答でございますが、請願駅としてＪＲの新駅を設置する場合は、その駅舎の整備費用の大半を要望主体である地元自治体が負担することが一般的であると聞いております。

小方新駅の場合、要望主体となる大竹市が整備費用の大半を負担することになると想定しておりますが、その財源をどのように捻出するかについては、現時点では未確定な状況でございます。ただし、新駅検討地のある小方地区の地域の方々から、直接負担や寄附を強いるようなことは、現時点では想定しておりません。

まずは、駅前広場や、線路横断施設の整備に当たりましては、誰もが使うことができる道路の整備事業として捉え、国土交通省の補助金等を活用することを検討するとともに、その他の財源についても、大竹駅の整備の際に活用したようなクラウドファンディングなど、幅広い方々からの寄附を募る手法なども検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○小田上委員長 企画財政課長。

○三井企画財政課長 企画財政課長の三井です。

質問の10番でございます。旧市民プール等が更地になる中、周辺地域の立ち退きが発生することが考えられる。その場合、どのような順序で進められるのかでございます。

旧市民プール等の周辺地域の立ち退きにつきましては、現時点決まっておりません。したがって、順序等も未定でございます。

続きまして、質問の11番でございます。国道の長い区間（国道２号から188号において）で道の駅がない理由をどのように分析しているのか、また、需要をどのように予想しているのかという御質問でございます。

道の駅は道路利用者のトイレ等の休憩場所がない山間部に整備したことが成り立ちでございます。そういった経緯をですねこちらの「教科書道の駅」に載ってるんですが、そもそも道の駅というのは、山間部になかなかトイレがないので、ＪＲの駅のようにトイレを造ったらどうかというところが成り立ちだということでございます。そのため、休憩場所が多い沿岸、国道２号から188号の間には、道の駅が少ないところでございますが、近年は、道の駅に求められる機能が多様化しておりまして、例えば、地域防災拠点であるとか、子育て支援拠点等の地域拠点として、都市型道の駅の開設も増えてきているという状況でございます。

質問の12番、Ａ、Ｂ、Ｃに区分されているところにもぎわい交流ゾーンに含まれたということで、まちづくり基本構想の改定もされた。その改定されてからＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄのゾーニングとなることに至った経緯の説明を求める。道の駅の構想については当初から存在していたと考えられるが、具体的にはＡ、Ｂ、Ｃの区分けの経緯について確認したいという質問でございます。

１月１７日と２月１９日の議員全員協議会でも説明をさせていただいておりますが、小方地区のまちづくり事業推進会議の４つの部会の１つでございます小方小・中学校跡地活用検討部会におきまして検討した結果、新駅の需要予測やまちづくりを進めるためには、跡地

活用の具体的な方策が必要であったということが理由でございます。

○小田上委員長 建設管理監。

○見当建設管理監 建設管理監の見当です。質問の13番について私から説明させていただきます。

御質問でございますが、前空駅のような形で民間企業負担はあるのか。検討の余地があるのであれば、B・C区域にも関わるのではないかと。新駅設置の方針で、B・C地区と抱き合わせて、新駅開発の民間委託の可能性はあるのかの御質問でございます。

請願駅である前空駅の事例を調べましたところ、新たな団地を開発する企業が、居住者の利便性を高めるために、企業の負担による請願駅として設置されたようでございます。

先ほどの御質問の9番の回答でも触れましたが、小方新駅の整備に係る財源年数につきましては、現時点では未確定な状況であり、今後も様々な手法を検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○小田上委員長 生涯学習課長。

○川村生涯学習課長 私のほうからは14番の御質問についてお答えいたします。

旧小方中学校体育館利用団体へ他施設の利用についての交渉など進捗があるかという御質問でございます。

こちらの方は、議員全員協議会の後、大竹市ボクシング協会会長から市長に対して要望書のほうが提出されております。しかしながら、時期的にはお願いの段階ということで、回答のほうは求められておりません。そのほかの団体については、現在のところ進捗はございません。

以上でございます。

○小田上委員長 企画財政課長。

○三井企画財政課長 企画財政課長の三井です。それでは質問の15番でございます。

A地区について、その後民間事業者・金融機関等からの問合せはあるのかという御質問でございます。小方小学校跡地のA地区を事業用地として処分する方針を公表いたしました1月17日の議員全員協議会以降でございますが、不動産会社、スーパー、コンビニ、住宅メーカーから問合せはございました。

以上でございます。

○小田上委員長 ありがとうございます。では議員全員協議会の資料についての質問というところで、一旦ここでさらに聞きたいことがあれば、質疑を受けます。

何か質疑はございますか。質疑なしでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 では小方地域まちづくり対策特別委員会について、残りの質問2つよろしくをお願いします。

課長。

○三井企画財政課長 企画財政課長の三井です。

質問の16番でございます。中間報告の委員長報告の中で、小方新駅の検討について、新

駅建設を進めるためには庁内で担当課をつくって進める必要があるという話であるが、本当に部署をつくるのか、各部署で専属の担当者がいるのかを確認したいという御質問でございます。

こちらは、最初に説明した資料1であるとか、資料2を御覧いただいたらと思います。

現時点では、小方新駅の検討だけを行う担当部署はございません。今後、必要性を見極める必要があると思っております。また、各部署で専属の担当者はいない状況でございます。他の業務と兼務でございます。

質問の17番ですね、どのような組織体制となっているのか、今後どのような取組を行うのかを確認する。こちらも資料1、2を参考にさせていただいたらと思っております。

資料2のほうですかね、より詳しく令和6年度の体制が載っております。今年度3部会、JR小方新駅検討部会、これが1つ目で、こちらの部会ではJRの相談、需要予測結果等の回収を行っております。

また、地元関係者に対する説明書、進め方等の検討、他事例調査、現地であるとか資料等の作成等の実施を行っているところです。

2番目、周辺道路検討部会につきましては、新設交差点及び道路計画についての関係機関との協議であるとか、交通量調査や交通量推計業務の実施時期、予算確保の検討等を行ってまいります。

最後に道の駅検討部会でございます。道の駅の基本構想・基本計画の作成を行っておるところでございます。

以上で、回答を終わります。

○小田上委員長 ありがとうございます。では、小方地域まちづくり対策特別委員会についてまとめた部分でのこの2つの質問、さらに聞きたいことございますか。

末広委員。

○末広委員 ありがとうございます。委員会なんですけども、結局誰が関わっていくかっていうところが、すごくこちらとしても危惧しているところで、大体、道の駅とか、ほかのまちづくりとかの成功事例を見るとやっぱりキーマンがいるんですよね。キーマンをどうやってつくっていくかっていうのを考えていただきたいと思います。

例えば、職員さんに結構行政職員さん向けのスクールとか、まちづくりのスクールとか、道の駅にスポットを絞ったスクールとか、あるはずなので、そういうのも参加していただけるような検討をしていただくことができますか。

○小田上委員長 今後の取組で、職員さんがどんな研修をされるか聞きたい。

課長。

○三井企画財政課長 実は、この後、午後から、私課長と係長が道の駅連絡会の研修会に参加をいたします。庄原市でやるんですが、そういった形で、我々も研さんしていきたいと、勉強していきたいと思っております。

以上です。

○小田上委員長 末広委員。

○末広委員 ありがとうございます。ぜひ、よく言われるんですけども、コンサルタントの

できるだけ言いなりにならないよう、できるだけ職員さんがいろいろ提案していただく形の体制を取っていただければと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

○小田上委員長 このまちづくりのところで特別委員会のほうの質問ですけど、ほかございますか。ないですかね。

それでは、全体を通して、この中にあったことでこぼれてることでも結構です。あと、前回の委員会のときは、まだ公募型のプロポーザルが始まるという情報がない段階で、委員会で取り組んでいこうという話を少ししてました。プロポーザルをされる前に意見を出そうという話をしてましたが、委員会の翌日にプロポーザルが開始されたということで、少し委員会の取組も変わってこようかと思います。それ含めて、質問がございましたら、執行部も答えられる範囲で御協力いただきたいと思うんですが、全体通してで結構です。何かございますか。

藤川委員。

○藤川委員 小方まちづくりにぎわい交流ゾーン立地検討業務報告書、概要版見させてもらってるんですけども、すみません、5ページの平成30年にできてるやつですかねこれ、古いデータと思うんですけども、最適案（案D）というのがあるんですよね、これを基本にこれからも計画していく感じでしょうか。

○小田上委員長 以前の予算特別委員会のときに委員から資料要求のあった資料からというところでは。

課長

○三井企画財政課長 平成29年度に作成した小方まちづくりにぎわい交流ゾーン立地検討業務の結果、最適案の事業スキーム（D）というのを参考にしながら進めていこうと思っております。

以上です。

○小田上委員長 藤川委員。

○藤川委員 Dを進めていくということは、体育館とは書いてないんですけど、赤色のところが体育館のイメージで、オレンジのところが道の駅のイメージなんですか。

道の駅があまりにもちょっと小さいと思ってたんですが。

○小田上委員長 課長

○三井企画財政課長 道の駅では地域振興施設とあと駐車場とか、そういったところが道の駅という区分になろうかと思うんですが、地域振興施設の1つとして、体育館というスポーツ・体験型道の駅ですので、体育館もそこへ含まれてきます。ただ、民間の事業者っていう定期借地っていう赤色の部分についての考え方をですね、当然その中の事業スキーム分としては、含めて可能性調査、民間活力の可能性調査もしていくというふうに思っております。

以上です。

○小田上委員長 藤川委員。

○藤川委員 ありがとうございます。場所のこれはあくまでも案で、見た感じの大きさとは限らないでいいんですよね。はい。案ということで分かりました。すみません。

続いていいですか、先ほど質問の14番、小方まちづくり、委員が質問した分の14番なんですが、進捗はないというお答えいただいたんですけど、令和8年で言えば解体設計が始まり、令和9年度には解体工事が始まる予定となっておりますけども、結構各団体、たくさんいらっしゃると思いますけど、間に合うんですかね。

○小田上委員長 生涯学習課長。

○川村生涯学習課長 生涯学習課長の川村です。

委員御心配のところ、そのとおりだと思っております。

今後、我々教育委員会、総務学事課と生涯学習課で、以前、説明会を実施したところでございますけれども、また各団体に声かけをさせていただこうかと思っております。

以上でございます。

○小田上委員長 藤川委員。

○藤川委員 ありがとうございます。利用団体は多分困りますんで、すいません引き続きよろしく願いいたします。

すみません続いていいですか。

○小田上委員長 特に議案の審査とかではないので、回数制限はあまり設けないようにしようとは思いますが、ほかの執行部の方にも簡潔に回答をお願いするようにしてますし、なのでなるべく、次回以降ですね委員の皆さん、3回以内を心がけていただくというようにお願いしたいと思います。質問されて結構です。どうぞ。

○藤川委員 ありがとうございます。

質問の7番です。休憩機能、情報発信機能、地域の連携機能、必要だということ、防災とかのその道の駅に、立地にもよるんでしょうけど、防災機能とか、避難所機能とかいうのは、お考えはありますか。

それと、もう3回目なので、一応もう1個聞かせてください。

小方地区のまちづくり基本構想の概要なんですけども、概要の先ほど説明した47ページ、年次別プログラム3年、5年、10年とあるんですけども、これもう以前にも質問してたら本当失礼なんですけど、この令和3年、令和5年、令和10年なのか、つくったときからの3年後、5年後、10年後なのか、すいませんお願いします。

○小田上委員長 課長

○三井企画財政課長 道の駅の関連でございます。やはり、防災道の駅というのも可能性を検討していこうと思っております。そういう中でどこまでそこに組み込めるかっていうのはこれからになるかと思えます。

○小田上委員長 総務部長。

○三原総務部長 年次別プログラムですが、これはつくったときに想定したものです。ただ、一番最後10年で切っておりますので、10年したら全部できるというのはちょっと難しいなと思っております。そのときに整理であるとか、検討であるとかいう言葉を入れて、引っ張ってるイメージなんですけれども、ここをちょっと点線とかを打っていないので、想定的には10年後というイメージ、つくったときからです。

○藤川委員 ありがとうございます。大丈夫です。

○小田上委員長 よろしいですか。質問の回数の話をしたところなんですけど、今後、委員の中での研修とか、調べて調査研究していくためにも、ここである程度疑問に思ってることは消化しておいてもらって、研究に挑みたいと思います。他にございませんか。

小出委員。

○小出委員 よろしくお願いいたします。

質問の8番目で、道の駅の基本構想についてのプロポーザル方式で、市としてどのようなイメージをしているかというところで、今、現段階では分からないというようなお答えがあったんですが、スポーツ・体験型の道の駅ということで、言葉だけが先行しているように思っていて、具体的なイメージが自分たちは湧かないところがあるんですが、例えば、いろんな提案がこれから出てくるんだろうと思うのですが、大体、市のほうとして、スポーツ体験型の道の駅っていうのは、どのような何ですかね、具体的に絞れないまでも、とはいえこういったパターンがある。こういったパターンがあるっていうふうなところのイメージっていうのはお持ちでしょうか。その辺が分かれば教えていただきたいと思います。お願いします。

○小田上委員長 企画財政課長。

○三井企画財政課長 スポーツ・体験型の道の駅のイメージでございますが、これもですね2月19日の議員全員協議会で、こちらのピンク色のものを配付させていただきまして、スポーツ・体験型道の駅イメージというのを長々と書いてありますので、ちょっとそちらを参考にさせていただくというのが一番いいのかなというふうに思ってます。これ以上は、今、プロポーザルの提案を受けている段階なので、今回の委員会を聞いた事業者が、不公平感があってはけませんので、それ以上はちょっとお答えしないということで御了承いただいたらというふうに思います。

以上です。

○小田上委員長 他にございますか。

豊川委員。

○豊川委員 ありがとうございます。ちょっとスポーツはまだ具体的にちょっと決まっていということなんですけれども、仮にですね、スポーツ体験型の道の駅ができたとしてですね、2月19日の議員全員協議会では、今のところその物販とか物の販売については、考えておられないという御回答があったんですが、物理的というか、スポーツをしたらおなかがすいたりしますよね、シャワーも浴びて汗を流したくもなりますし、やはり、私は物販等あった方がいいんじゃないかなと思うんですけど、その辺のお考えについては、何か変わられたりとかはされておりますでしょうか。

○小田上委員長 課長。

○三井企画財政課長 誤解があったら申し訳ないんですが、1月、2月の議員全員協議会で農産物、海産物含めて、物販がないという話は一切しておりません。答弁させていただいたのは、道の駅としてスポーツ体験型を大竹の場合はメインとして、それ以外はゼロベースですということなんで、農産物、海産物等の物販も可能性については今後探っていく、先ほどの防災道の駅と同じような位置づけであろうというふうに思ってます。

以上です。

○小田上委員長 豊川委員。

○豊川委員 ありがとうございます。今後ですね、すいません私のほうもちょっと勘違いしておったところがあります。申し訳ございません。今後、物販等も考えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○小田上委員長 他にございますか。

ないようであればここで一旦終わろうかと思うんですが、副委員長ございますか。
副委員長。

○細川委員 発言お許しいただきありがとうございます。2、3お尋ねしたいんですけども、今後、公募型プロポーザルで道の駅、基本構想をつくっていただく事業をしていくわけですが、6月中旬に契約を決めて、それから先2年間かけてつくるときに、コンサルタント会社が計画をつくるに当たっての市との関わりですか、そこら辺はどういうふうに関わってくるのかなと、やっぱり市の思いをしっかりと基本構想づくりに入れていっていただきたいと思うんですけども、その辺の考え方っていうか、教えてください。

○小田上委員長 企画財政課長。

○三井企画財政課長 市のほうは、先ほど部会で説明いたしましたように、道の駅検討部会というのをつくっておりますので、市の考えというのはそちらのほうでしっかりもんでいく、それと同時並行としてですね、市の職員ではなかなかリサーチできないところであるとか、分析できないところ、そういったところをコンサルタントに担っていただくという形なので、同時並行的に関わりながら、基本構想・基本計画で今後つくっていくという形になろうかと思います。

以上です。

○小田上委員長 副委員長。

○細川委員 今、道の駅単体のことをお尋ねしたんですけども、今後小方新駅も含めて資料2で頂いた、令和6年度の体制で3つの部会に分かれてということですが、全てが関連してくると思うんですけども、部会長がそれぞれ別の課長になっておりますけど、これ全体的に何か調整を図るとか、ああいうふうな感じをしていく立場の方というか、そういう形を持ちながらやっていくのかどうか、教えてください。

○小田上委員長 総務部長。

○三原総務部長 資料2ですかね、この体制についてという部会があるその上に、小方地区のまちづくり事業推進会議というのがあると思います。ここで、それぞれ出てきたところをまた合わせながら、問題点があるところをここでもむと、そして、また返すという作業を行います。ある程度まとまったものは、今度は庁議というところ、一番上ですね、ここへ持ち上がって、ここで合意形成が得られましたら事業を進めていくという形になっておりますので、取りあえず3つの部会の意見を取りまとめるのは、事業推進会議ということで、私が委員長をしております。

以上です。

○小田上委員長 副委員長。

○細川委員 ありがとうございます。ばらばらにならないように、しっかりと横の調整も取りながら進めていただければと思います。

最後なんですけど、道の駅をやってく上で、私この登録要件をお尋ねした細川なんですけれども、この資料3の休憩機能、情報発信機能、地域連携機能、もうちょっとなにか絶対にこれが必要だという縛りがあるのかと思ったんですけど、特にそういうのはなさそうなので、国に今後どう説明していくのかという、説明する力量が問われてくるようにも思うんですけどね、特に気になるのは休憩機能とかいうのは、今後、廿日市のバイパス、これですかね、2025年問題もあって、国土交通省が主導ですごく大きな休憩施設ができるようにも見てるんですよ。そうすると、国としても補助金を出す上では、大竹の道の駅も成功させなきゃいけないので、そこら辺でかなりその問われる部分も出てくると思うんですけどね、ああいったすみ分けとかについては例えば、廿日市市と連携していくとか、市は市として独自の考え方を持っているとか、何か考えをお願いします。

○小田上委員長 企画財政課長。

○三井企画財政課長 言われるようにですね、休憩機能の拠点の距離っていうのをかなり国は気にします。ですので、そういったすみ分けであるとか、大竹の道の駅の役割であるとか、そういったところを含めて、今後、国土交通省と話をしていくという形になろうかと思っています。

以上です。

○小田上委員長 よろしいですか。副議長ございますか。

副議長。

○寺岡副議長 新しいことに目が行きがちなんですけれども、小方地区には既に市、市民の財産というのは数多くあるわけじゃないですか。何でもかんでも例えばこの道の駅とか、A、B、C地区に、あの機能、この機能と全部詰め込んでいっても、もう既にある機能ってこの地区を大きな道の駅、立ち寄り所として考えた場合に、あまり意味がないなというふうに思うんですよ。スポーツということであれば晴海臨海公園ですし、文化教養でいけば、下瀬美術館が来ていただきましたし、物販ということ言えば大型商業施設が既にあって、この辺りのそれぞれの地域連携で言えばおがたピアも忘れちゃならないと思うんですけど、この辺りを総合的に見たときのそれぞれの施設というか、設備というか、そういったものの互惠関係、相互作用、そういったものを考えながら、細かいところを詰めていかなきゃいけないと思うんですけども、これまでも端々でお話も一言、二言いただいているところですが、ちょっとこの時点で改めて地区全体の中でのこの道の駅の役割、また、全体的に人がどのように動くかという期待ですね。その辺ちょっとお話しいただいとったほうが道の駅、小方新駅というふうに何か変に狭い中で見てしまわないかなという心配がありますので、ちょっと大きな目のお話を聞かせてください。

○小田上委員長 総務部長。

○三原総務部長 もともと小方地区のまちづくり基本構想ということでスタートをしておりますが、これは小方地区に限ったことではありません。ここを起爆剤に、大竹市全体を活性化していきますというのもこれも大きなコンセプトですから、その辺りはぶれないよ

うにやっっていこうと思います。

また、周りの施設等ということですが、今回、道の駅の基本構想・基本計画策定業務仕様書の中にも、市の公共施設体现の方向性であるとか、上位計画であるとか、そういったところを見ながらやってくださいということが書いてありますので、その辺りも気をつけながらやっっていこうと考えております。

○小田上委員長 よろしいですか。

それでは終わろうと思うんですが、執行部の皆さん御協力ありがとうございました。委員会の思いとしては、2回目の特別委員会のときに話をしましたが、月に1回、執行部の方に話を聞いて進捗状況等伺っていければいいなという思いを持っておりますので、今後とも御協力をよろしくお願いいたします。

それに加えて、委員の皆さんも、自分たちが研究していく中での消化したい質問というものを持ってきていただいて、要望もすることであろうと思います。全く駄目とは思いませんが、要望ばかりをするようにならないように、自分たちが調査研究していく中での質問というものを聞く。あとは、そのために必要な市の考え方を聞く。現状を聞くというようにできればいいかなと思ってますので、その辺りも委員の皆様、協力をよろしくお願いいたします。

それでは日程1を終了いたします。日程2は委員内の協議となりますので、執行部の皆さん御退席いただいて構いません。

暫時休憩いたします。

11時15分に再開いたします。

11時05分 休憩

11時15分 再開

○小田上委員長 休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程2、その他を議題といたします。

日程1お疲れさまでした。

質問事項に関して、満足な回答というものがあつたかなかったか、もうちょっと突っ込んで聞きたかったけどなというところもあつたと思います。先ほどの質問をして、回答をもらうっていうやり方についてなんですけど、さっきの感想を含めて、今後このままでいいか、執行部が毎回、毎月お願いしようとは思ってるんですが、そのときのやり方について、先ほどの感想と、やり方もし御提案があれば伺っておいて参考にしながら、よりよいものにしたいなと思うんですが、いかがでしょうか。

中野委員。

○中野委員 ありがとうございました。いろいろ質問表の作成等大変だったと思います。ありがとうございます。やはり、執行部の頭の中を見える化していくっていうことが非常に大切だなというふうに思いました。こちらが要求することで資料を作成していただいて、見えることができるっていうことになるとと思いますので、やはり、視察とは別で執行部への質問、意見等というのは継続的にしていくべきかなというふうに思います。今回もこれだけたくさんの資料をまとめたりとか、いろいろ抜粋で出していただけだと思いますので、

また継続をして、こういった場というか、こういった資料欲しいんです。こういった意見をお伺いしたいんですっていうことは、アンテナ立ててこの特別委員会としてやっていくべきかなというふうに実感しました。貴重な機会でしたありがとうございます。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。他にございますか。

末広委員。

○末広委員 資料をああやっていっぱい質問用意していただいて、資料も執行部も準備していただいて、そういう機会をつくっていただくのはありなんじゃないかなと思うんですけども、やっぱり委員会としての要望事項とかってまとめていきたいなと思いますので、そこら辺は議題に上げてここで諮れるようなものがつくればなと思います。やっぱり個人で聞いて要望するのと、委員会ですべて要望するのは、捉え方が違うので、委員会として何を要望できるかっていうのは検討すべきかなと、以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

何かございますか。単純に感想でも結構ですし、ここが聞きたかったけど、なかなかかっていうのも結構ですけど。

藤川委員。

○藤川委員 すいません。体育館なんですけど、スポーツ型体験、体育館、いつでしたかね市長の答弁のアミューズメント的な体育館っていうのが全然まだ本当にイメージが湧いてこないんですよ。なるべく早めに体育館のそのイメージが伝わるような資料提供とか説明をしていただけたらなとは感じました。

○小田上委員長 イメージが見えてきたタイミングではすぐに知りたいというところですね。はい。ほかございますか。

中川委員。

○中川委員 執行部の説明をいただくときなんですけどね、やはりこちらから質問したことに対して答えてくださるわけなんで、その答えに対しての質問をするべきであって、それ以外のことはまた違った場で質問を投げかけるべきだと思うんで、そういう場にしないほうがいいんじゃないかと、執行部がいるときですね。執行部が何のために来てくださるのかというのは、要するにこちらから質問をかけたことに対して答えてくださるいうことなんで、その質問に対しての質問、分からなかったとかはどこなのか、どういうことなのか、それ以外を膨らますと切りがなくなってしまうので、まだ決まってないことまでこちらから質問を投げかけるというのは、ちょっとどうかなと思いますので、そういったことを気をつけていきたいと思っております。

以上です。

○小田上委員長 なので、今回、事前に質問整理して渡しました。そのことについて、僕が外れてもいいよと言ったところもありましたので、膨らんでの質問をされた方もおられると思う。ただ、事前に質問したことによって、じゃあこれはというのは出てくると思うので、そこを止めるものではないかなと思います。なので、開く際にはしっかりとこういう質問しますというものを渡しておいたほうがいいということですね。

ほかございますか。よろしいですかね。副委員長もよろしいですか。

それでは、月に1回はお願いしていこうと思います。これから研究していく内容、進捗状況によってはその中で聞きたいねというところが出てこようと思います。なので、特別委員会で調査したもので、特別委員会としてはこういうふうに考えてるんだけど市はどうなんだろう。執行部はどうなんだろうというところも解消しながら、進めていけたらと思います。その際には先ほどいただいた、しっかり事前に質問を整理して、執行部に渡してというところでいきたいと思います。それでよろしいですかね。

では、続きまして、まちづくりスケジュール案というのをちょっとつくりましたので、確認いただければと思います。

今日時点でのスケジュールの案です。4月から質問をつくったりしまして、今月執行部に質問というところで整理して行ってきました。次からは、6月、7月、8月の道の駅のPFIとか、調査・研究、運営方法とかっていうのをやったらどうかっていう御提案があったので、そこに注力していくっていうことが適当なのかなと思ってこういうふうにつくってます。

ただ、6月から取組を始めて、この計画って書いてあるところは計画の見直し、この特別委員会の中での活動の方向をもう一度確認するということで、6月から取組を始めて、7月に本当にこれでいいのかというのを確認して、8月には視察もしくは研修というところを考えつつ進めていきたいと思います。

9月に入れば、末広委員からもありましたけど、この特別委員会として活動したものを整理して、案とか要望っていうものを含めて文書提出しようという話には当初からなってますので、12月に向けてそういうものを作っていくという作業になろうかと思っています。

今日決めたいのが、このスケジュールどおりに進んでいいかというところ、そして、やるとして、この道の駅の研究でいいのかっていうところを決めていきたいと思うんですが、皆さんいかがでしょうか。

小出委員。

○小出委員 プロポーザルのスケジュールが、6月の中旬が契約の締結っていうふうになっておりますので、その後ぐらいで1回説明を受けたいなというふうに思うんですが。

○小田上委員長 ありがとうございます。そうですね、今日もらった資料にもありましたけど、契約締結が6月中旬ということで、6月定例会の会期で恐らく20日前後に特別委員会じゃないかなと思います。この特別委員会が開かれるのかなと思いますが、結果が分かるかどうか微妙なところっていうところだと思います。なので、もしかしたら7月に入ってからになるかもしれませんが、それはお願いしようと思います。

なので、その説明はしていただくとして、委員会での道の駅の活動というところで調査研究なんですけども、まず、道の駅でいいかどうかですけど、よろしいですか。

道の駅にまず注力していくということで。

それではスケジュールとしても見直しを7月と10月というところで、諮ろうと思いますので、そのときにはしっかりと意見出していただいて、進捗状況がよければ、早めに作ってしまっ、例えば9月に出すのもありかもしれません。遅れているようであれば、どう

スピードアップさせるかっていう計画の見直しも必要だと思います。

この特別委員会ですね、令和7年6月まではしっかり活動して、令和7年6月から9月定例会に向けては中間報告の作成になろうかなと思います。なので、ひとまず年末12月あたりから6月までの半年間の計画を立てて、しっかり活動して、それをまとめたものを中間報告するという事になろうと思います。

では、スケジュールもひとまずこのように行っていったほうがいいですか。

副委員長。

○細川委員 ごめん聞き逃したかもしれないんだけど、この12月の文書提出っていうのは、これは何について。今ちょっとあんまりイメージないんですけども、なんでこの12月というタイミングを考えられたのか、その辺説明お願いします。

○小田上委員長 前回の話の中で意見をまとめたものを提出するという流れにはなったんですけども、そのときには了解をいただいて、ここが道の駅に特化したものではなかったように記憶してます。小方地区のまちづくり基本構想の微修正等もしたらどうかという意見もあるんじゃないかという話もしましたし、先ほど執行部の説明の中では今のところ修正する予定はないという話でしたが、そうじゃなくって修正したほうがいいんじゃないのっていう意見も例の1つとしてですけど、あり得るんじゃないかと思います。なので、特段、道の駅だけっていうところではないということと、あとは道の駅等の加味をして、今年中には意見を提出したほうが、今後の道の駅を含む取組にしっかり意見が反映されるんじゃないかというところで、今年中でという設定をしたところで、皆さんに御了解いただいたと記憶してるんですが、すみません説明になってますか。

副委員長。

○細川委員 すみません。了解していたのにこんなことを聞いて申し訳ないんですけど、あんまり12月にこだわり過ぎると、中身が不十分でいくかもしれないので、その辺はちょっとゆとりを持って、特別委員会として調査の結果を何か提案していくものが見つかれば、出した方がいいと思います。

12月にこだわり過ぎたらよくないかなという気がしました。

以上です。

○小田上委員長 はい、ありがとうございます。年内に出したほうがスピーディーじゃないかなと、執行部のほうも動きやすくなるかなという思いでのスケジュール感ではありましたが、何か特別委員会の活動としてはもちろんまだまだありますので、少し不十分であるというところであれば、後ろにずれるということも1つかなと思いますが、そのような認識で皆さんよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 不十分なものを提出するよりも、しっかりと煮詰まったものを出したほうがいいと思いますので。スケジュールに関しては、今後変動の可能性もあるけども、ただ、締切りがあんまり遅いつていうふうになってると、皆さんほかの委員会等もございますし、後回しにしがちになると思います。なので、ひとまず期限は見据えつつですね、活動していきたいと思います。

では、スケジュールと取組についてはこれでひとまず決定ということでよろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 それでは、次回からは、調査研究というところを進めていきたいんですが、前回話をしていた中でいろんな研究の材料があるんじゃないかというものがございました。定例会までっていうとちょっと空くんですよ1か月ぐらい空くので、できればもう少し早めに1回やって、そのときに皆さんが調査、会派等に持って帰っていただいて、所属の常任委員会とか少し話しされるとかあるかもしれません。こういう題材を研究していったらいいんじゃないかというような題材案をまず出していただいて、次回の定例会中は執行部に来てもらって、現状の説明もごさいます。整理をして、どういうふうに取り組んでいくかっていう順番も決めていきたいと思ってるんですが、いかがですか。1か月ぐらいはあったほうがいいですか、この宿題というか調査事項を決めるという抽出までに、なので、抽出作業は例えばですけど、6月の2週目くらいにまだほかの予定全く見てないと分からないですけど、2週目とかまでに出していただいて、その出たものに関して定例会中の特別委員会の中で行う。優先順位つけてどう取り組んでいくかというところが、やっていかないと、6月に抽出したものをこれがいいと思いますって、ぱんっていきなり見て、どうしようかというのは、意見まとまらずに7月からというところも全く進みが遅いので、そういう流れでいかがかなと思うんですけど、皆さんよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 それでは、ひとまず日程は置いておいて、次回の特別委員会のときに調査していく道の駅に関して、調査する項目というものが優先順位等あろうと思います。自分の中では何個目までやるとか幾つか挙げていただいて、優先順位これが高いんじゃないかっていうのを決めて出していただいて、それをまず特別委員会の中で次回の特別委員会で発表、出していただきます。そのまとめたものをその次ですね、定例会の会期中の委員会でどういうふうに取り組んでいくかっていう決定をしたいなど。

実際に行うのは7月からになるかもしれませんが、そのような形でよろしいですかね。課題の選定かなり重要だと思いますので。これに関して何か御意見ございますか。

中野委員。

○中野委員 ごめんなさい。スケジュールをもう一回確認させてください。この日、当日に発表すればいいということですか。

○小田上委員長 そうですね、それまでにいただいておいて、一応どういうものがあるかっていうのは出しておいて、優先順位を決めるっていうのは次の回のほうがいいかなと思います。こういうものが出ましたっていう状況をしっかり把握しておいて、自分たちも発表してこういう理由を述べてもらって、また会派なり周りの方と話してこの優先順位がいいよねというところを持ち寄って、その次に決めたいと思ってるんですが、もっと早い方がいいですか。

○中野委員 いえ、大丈夫です。単純に期限が知りたかったので、いつまでどうしたらいいかっていう、はい。

○小田上委員長 末広委員。

○末広委員 その課題検討するに当たって、先ほど執行部が1冊本出したと思うんですけど、「教科書道の駅」、あれをできれば見たいなと思ったんですが、さっきざっと調べたらこれ売ってないんですよ。どういう方法がいいのか分かんないんですけど、でも見たほうが検討するにはいいんじゃないかなと思う。ちょっと方法を考えなきゃいけない。検討していただければと思います。すみません。

○小田上委員長 先ほど執行部から御紹介あった書籍について、目を通したいという意見がございました。局長いかがでしょうかね。

○山田議会事務局長 ちょっと確認をしてみて、拝借できるようであれば借りるとか、方法取りたいと思います。

○小田上委員長 本来ならそれぞれ皆さんが1冊ずつ持って読んでくるというのがスピーディーだとは思いますが、入手しづらいということであれば、1冊しかない状態ですし、なのでちょっといい方法を考えて、皆さんに情報提供できるように努力はしたいと思います。事務局すみません。御協力よろしくお願いします。

ほかに何かございますか。

副委員長よろしいですか。

副議長も何かあれば。

副議長。

○寺岡副議長 今後、今からテーマが上がってきたりして協議内容とか決まってくんじようが、来年度予算に反映させるような何かが起こる可能性は委員長はどう考えてますか。

もしそれであれば、先ほどのスケジュールに戻るけど、12月の文書提出というのは、期限を決めにやいけん部分もあるだろうし、意識しておられたらいいかなというふうに思いました。

以上です。

○小田上委員長 来年度予算を見据えれば、12月までというのも1つの方法かなというところでもございました。確かに9月から始まって、12月過ぎちゃうとなかなか提案しても、方向が決まってるというところあると思います。その辺りも加味しながら、ただ道の駅の基本計画の策定については、令和6年、令和7年にかけての策定ということではありますので、焦り過ぎないように、やっていくことも重要なと思います。進め方、内容等何でも結構です。分からないまま終わってしまうとよくないので、次、取り組むことが何なのか、しっかりと話終えて終わりたいと思うんですが、道の駅に関することであれば、基本的に次回、調べたい項目、取り組みたい項目っていうのは、全般、ひとまずテーブルに上げるということでもいいのかなと思ってますが、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 では、日程に行きたいんですけども、次回の、6月10日が議会運営委員会ですよ。なので、議会運営委員会以降でってなると、大変かもしれませんが、今日が21日か、どうしましょう。3日月曜日からの週にやるか、10日月曜日からの週にやるか、ひとまず6日の10時から議会のある方調査研究特別委員会が入ってます。

どちらがいいですか、会派などで意見調査項目まとめてっていう作業が、どれぐらいを皆さん見込まれているかにもよりますが、議会運営委員会があると、もちろん議案の配付もありますので、そちらの議案に注力というのももちろんしないといけないので、できれば3日の週でやりたいなと思いますが、皆さんよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 事務局すみません。3日の月曜日の週で難しいところがあればお願いします。

局長。

○山田議会事務局長 5日水曜日ですけど10時から議案の事前説明があります。それから、6日の10時から議会のあり方調査研究特別委員会予定されております。その日は、議長は公務がありますので午後からも6日はちょっと難しいのかなと、もし議長抜きでってことであれば、午後の議会のあり方調査研究特別委員会終了後というのは可能かなと思います。

○小田上委員長 ありがとうございます。なるべく6日は避けてということだったように思います。5日は議案説明、これが長くかかる、午前中いっぱいという感覚でよろしいですね。皆さんどうしましょう。何か提案があれば。

例えば7日に開催にして、まとめる作業がありますので、4日までを締切りにして7日開催とかっていう方法もあろうかなと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 では、4日をこの取組事項の提出期限にして、こちらでまとめる作業をさせてもらって、7日に開催ということで、皆さんよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 10時からでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 では、次回開催は6月7日10時から、締切りは4日いっぱいということで、5日の朝時点で事務局に届いてるようということでお願いします。

データとしては、エクセルが一番やりやすいかなと思いますので、エクセルで箇条書が好ましいですが、難しい場合は少し分量長くなっても構いません。なので、エクセルで提出をよろしくお願いします。

4日中に提出をお願いします。

そのほかございますか。よろしいですか。

それでは終わろうと思います。

前回開催したときに、プロポーザルの件もまだ余裕があるんじゃないかというところで、私、申しておりましたが、蓋を開けてみれば4月23日にというところで、大変申し訳ございませんでした。

そして、訂正のメールを送らせていただきましたが、商業施設での小方地区のまちづくり基本構想のときの聞き取りですが議会は開催する側や主催者側には入っておらず、当日市民の方と一緒に参加した議員もいたというようなところでございました。認識不足で申し訳ありませんでした。

なので、そこの訂正、随時情報提供来ますので、今回のプロポーザルについても情報提供いただいて皆様にもメールで送っております。何かありましたら出していきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、すべての日程を終了いたしましたので、小方まちづくり特別委員会を終了いたします。

11時40分 閉会